

第3回「県立高等学校整備構想（仮称）」検討委員会

日 時：平成20年12月19日（金）

午後1：30～

場 所：農林高等学校

文化創造館

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 事

- (1) 定時制について
- (2) 通信制について
- (3) 中高一貫教育について
- (4) その他

4 その他

- (1) 次回日程について

定 時 制

定時制とは

中学校を卒業して勤務に従事するなど、様々な理由で全日制の高校に進めない青少年に対して高校教育を受ける機会を与えることを趣旨としています。

○定時制課程の定義（学校教育法第4条）

夜間その他特別の時間又は時期において授業を行う課程。

○教育内容

全日制と同じ内容を、3か年以上で学習します。

○定時制の形態

定時制には昼間部定時制と夜間部定時制及び昼・夜間部定時制があります。

現構想の内容

- 多様な生徒の実態や希望に対応するためには、生徒のニーズの高い昼間部の増設を図る必要がある。
- 生徒の多様化に対応するため、単位制の増設を進める。
- 昼間部と夜間部を併置した学校を、富士北麓東部地域にも1校設置することを検討する。
- 生徒募集を停止する基準を設けることを検討し、非常に小規模な分校等の統合を進める。
- 中央高校では、昼間部への希望者が多く、総合学科移行を目指す。また、夜間部においては普通科と専門学科の併置とするなど、検討を行う。また、入学希望者が増加しており、普通教室など施設や設備の拡充を図っていく。

経 緯

平成 3年4月：中央高校昼間部設置（昼・夜間部の二部制）、中央高校単位制に移行

平成12年3月：上野原西原分校閉校、甲府工の定時制を除く定時制単位制に移行

平成14年3月：谷村工業道志分校閉校

平成16年4月：ひばりが丘高校閉校、甲府工の定時制単位制に移行

平成19年3月：吉田高校定時制閉課程

現状と課題

《定時制全般》

- 高校の生徒数が急激に減少する中であって、定時制に在籍する生徒数は、近年増加傾向にあります。
- 「働きながら学ぶ」ことを主たる目的として設置された定時制ですが、在籍生徒数全体に占める勤労青少年の割合は6%程度です。
- これに対して、「基礎学力の不足」「不登校ぎみ」「全日制になじめない」など、多様な入学動機や学習歴を持つ生徒が増えています。
- 全日制に比べ、様々な理由で中途退学する生徒や、卒業後の進路を定められない生徒も多いことから、教育環境の充実とともに、生徒一人ひとりへのきめ細かな指導が求められています。
- 「定時制・通信制庁内検討委員会」（H19.11～H20.3）では、今後の検討の方向として、「著しく入学者の少ない定時制は、働きながら学ぶ生徒に配慮しつつも、再編に向けて検討する。」「生徒の多様化やニーズに柔軟に対応できるように、定時制独立校の教育の充実を検討する。」との意見集約を行っています。
- H19年に実施した「高校改革アンケート」によると、今後の定時制高校には、「現状どおり、働きながら学ぶ人のため、夜間部を主に考える方がよい」が19%なのに対し、「多様な生徒が学習できる昼間部と夜間部をあわせ持つ多部制がよい」とする意見が過半数の51%を占めています。
- H20年に実施した「県立高等学校の整備に関するアンケート」によると、定時制高校への期待として「他の高校からの転編入や社会人が学ぶことができる高校」が全体の27%、午前部・午後部・夜間部のある高校」が24%を占めるなど、学び直しができる高校や多様な生徒を受け入れることができる三部制高校を期待しています。
- 多様な生徒が増加していることを背景に、他県では新しいタイプの高校として三部制高校などが設置されています。

《昼間部》

●中央高校

- 定時制生徒の40%以上が在籍しており、中心校として大きな役割を担っています。
- 昼間部の受検者は毎年定員を上回っており、全日制になじめない生徒、不登校の生徒、個別の指導を必要とする生徒など、多様な生徒が入学しています。
- 校舎は建設以来40年近く経過し、狭隘化、老朽化が著しく、また、平成27年度までに耐震への対応を図る必要もあることから、教育環境の整備が喫緊の課題となっています。
- 夜間部の希望者が少なく、昼間部に多様な教育ニーズがあることから、定員の見直しや授業時間など生徒の実態やライフスタイルを考慮した学習環境の整備が求められています。
- 増加傾向にある個別の指導を必要とする生徒など、多様な生徒にきめ細かな指導を行うため、個々の生徒に応じた教育と教職員の充実が求められています。

●ひばりが丘高校

- 設置から5年が経過し、施設・設備等は整備されていますが、中央高校同様、生徒の多様なニーズがあります。

●葦崎高校

- 地域の企業に従事する勤労青少年などのために設置され、現在は全日制に併置した昼間部の定時制となっています。
- 施設については、全日制、定時制の共用化を図りながら整備してきたところですが、全校集会や学校行事、体育や情報の授業などに一定の制約があり、施設整備充実の要望があります。

定時制における入学者選抜の状況

学 校 名	昼夜	科 名	定員	入学許可予定者数							平 均
				H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	
中 央	昼	普通	60	61	60	60	58	60	60	58	59
	昼	機械	40	37	40	38	40	39	40	39	39
ひばりが丘	昼	普通	30			29	21	30	18	22	24
	昼	機械	30			30	11	28	19	17	21
葦 崎	昼	普通	40	32	40	40	39	37	39	39	38
中 央	夜	普通	40	18	25	19	22	22	15	18	19
	夜	機械	40	13	8	7	12	9	16	8	10
ひばりが丘	夜	普通	30			7	9	9	11	9	9
巨 摩	夜	普通	40	15	23	18	19	13	11	18	17
山 梨	夜	普通	40	14	7	10	7	2	17	10	9
都 留	夜	普通	40	8	14	10	11	9	14	9	10
谷村工業	夜	普通	40	9	12	5	4	10	9	5	7
甲府工業	夜	機械	40	16	19	11	14	10	12	13	13
	夜	電気	40	6	11	11	6	4	6	7	7
	夜	建築	40	8	11	12	8	8	1	4	7

通信制

通信制とは

全日制・定時制の高校に通学することができない青少年に対して、通信の方法により高校教育を受ける機会を与えることを趣旨としています。

○通信制課程の定義（学校教育法第4条）

通信による教育を行う課程

○教育内容

- ・職場や家庭で、自分の能力や時間に合わせ、学校の定めた進度に従って学びます。
- ・学習の成果は、レポートにまとめて学校に送り、添削指導を受けるとともに、スクーリングに出席して面接指導や試験を受けます。

現構想の内容

通信制課程は、自宅などでの学習によって高等学校の卒業資格が得られる特色を生かし、多様なニーズに応じていくとともに、生涯学習の観点から、科目履修制度の拡大に努めていく必要があります。

経緯

- ・本県の公立高校で通信制課程を持つ高校は中央高校のみです。
昭和46年4月：中央高校開校時に通信制を併置
*中央高校通信制課程には普通科と衛生看護科が設置されています。

通信制における入学者数及び卒業生数の推移

*入学生徒数

	H16	H17	H18	H19	H20
無単位入学生	91	69	98	81	84
有単位入学生	63	57	60	58	55
合 計	154	126	158	139	139

*在籍生徒数

	H16	H17	H18	H19	H20
普通科	414	381	469	493	508
衛生看護科	12	11	10	13	13
合 計	426	392	479	506	521

*通信制は面接を受け、原則的に全員合格の状況

*卒業生徒数

	H16	H17	H18	H19
卒業生数	79	56	83	51

現状と課題

- ・現在15歳から60歳代の生徒が通信制で学んでいます。
- ・職業を持つ生徒や家庭で学ぼうとする生徒など、多様な学習ニーズがあります。
- ・他校の定時制に在籍する生徒が中央高校の通信制で学んでおり（併修生）、3年間で卒業できる三修制の制度を活用しています。（H20年度は5校22名が併修しています。）
- ・甲府看護専門学校准看護科に在籍する生徒が衛生看護生として学んでいます。
- ・通信制課程に在籍する生徒のスクーリングと昼間部定時制の授業が月曜日に重なり、授業展開に制約があります。
- ・ひばりが丘高校で実施している「分室スクーリング」では、受講者が極端に少なくなっていることから、存続について検討する必要があります。

新たな構想における論点

- ・多様な学びのニーズに対応できる通信制課程を今後も中央高校に併置することとし、施設の充実に努めるという方向について。

《夜間部》

- ・全日制・定時制併置校では入学者数が一桁に留まる高校があります。
- ・夜間部の入学生徒数は減少傾向にあるものの、多様な生徒が在籍しています。
- 甲府工業高校
 - ・定時制には機械、電気、建築の3学科があり、建築にはさらに夜間専攻科が設置されています。
 - ・「定時制・通信制庁内検討委員会」（H19.11～H20.3）では、今後の検討の方向として、「入学者が一桁の学科もあることから、学科の改編を検討する」との意見集約を行っています。

新たな構想における論点

○今後の定時制全体の在り方について

- ・昼間部については、独立校を新しいタイプの高校に改編し、充実を図っていくことについて。
- ・昼間部定時制への入学希望者の増加傾向や多様化する生徒のニーズに対し、全県的視野に立って柔軟に対応していくため、本県定時制教育の中心校である中央高校について、生徒の実態やライフスタイルを考慮しつつ、教育環境を整備していく方向で検討することについて。
- ・夜間部については、「働きながら学ぶ生徒」に配慮する中で、著しく入学者の少ない定時制は募集停止する方向で検討することについて。

中高一貫教育校

中高一貫教育とは

中高一貫教育は、平成9年6月の中央教育審議会答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（第2次答申）」の提言を踏まえ、平成10年6月に学校教育法等の関係法令が改正され、平成11年4月に制度化されました。

■中高一貫教育の実施形態

中高一貫教育については、生徒や保護者のニーズ等に応じて、設置者が適切に対応できるよう、次の3つの実施形態があります。（別紙資料参照）

○中等教育学校

一つの学校において一体的に中高一貫教育を行うものです。

○併設型の中学校・高等学校

高等学校入学者選抜を行わずに、同一の設置者による中学校と高等学校を接続するものです。

○連携型の中学校・高等学校

既存の市町村立中学校と都道府県立高等学校が、教育課程の編成や教員・生徒間交流等の面で連携を深める形で中高一貫教育を実施するものです。

経緯

○山梨県中高一貫教育研究会議（H10.6～H12.2）（平成12年2月16日提言）

- 1 数々の利点を持つ中高一貫教育校を本県も設置することが望ましい。
クリアすべき問題点・課題
 - ・「受験エリート校」化しない。
 - ・受験競争の低年齢化を招かないようにする。
 - ・小学校段階での進路選択が困難な面がある。
 - ・通学の利便性に配慮する。
- 2 本県に設置する場合は、併設型か連携型から検討していくことが適当である。
- 3 総合学科又は普通科が適当である。
- 4 地域バランス・設置場所・通学の利便性・ニーズ等を考慮し、複数校設置することが望ましい。
- 5 面接・作文・集団活動・抽選等の方法を組み合わせて入学者を決めるのが適当である。

○新しい高校づくり課題研究協議会（H11.10～H12.7）（平成12年7月17日報告）

中高一貫教育研究会議の提言を踏まえ、推進に向けて具体的な検討を進める必要がある。

○中高一貫教育懇話会（H13.7～H14.3）（平成14年3月22日提言）

- ・6年間の一貫した学びの中で、豊かな人間性や社会性、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」をより効果的に育むことができる中高一貫教育の早期導入が必要である。

○第2次新しい高校づくり課題研究協議会（H14.6～H15.7）（平成15年7月28日報告）

2校目の中高一貫教育校の設置に当たっては、普通科のほか総合学科高校への導入など、様々な角度から検討する必要がある。

○北杜市立甲陵中学・高等学校

沿革

昭和32.4.1：5年経過後に町立移管を条件に私立高校（長坂高校）として開校。

昭和43.12.11：公立に移管

昭和57.4.1：組合立甲陵高等学校に校名変更（H18.3：北杜市立に改称）

平成10.4.1：単位制導入

平成16.4.8：甲陵中学校第1回入学式（中高一貫教育を導入）

現在、甲陵中学校に入学した生徒は甲陵高校2年に在学中

□甲陵中学校教育目標（H20年度）

「高い志をもった気骨ある生徒の育成」

<めざす生徒像>

- (1) 健康で、たくましい生徒
- (2) 知性が豊かで、創造的な生徒
- (3) 徳性が高く、自己を磨く生徒
- (4) 感性に富み、心豊かな生徒
- (5) 郷土の歴史文化に関心の持てる生徒

全国的な動向（公立中高一貫校）

- ・平成11年に3校からスタートした中高一貫教育校は、平成20年には全国の公立高校158校に設置されるまでになっています。
- ・実施形態からみると、中等教育学校20校、併設型60校、連携型78校となっており、簡便な連携型から本格的な中等教育学校又は併設型へと設置形態が移行しています。
- ・また、中高一貫教育は、「ゆとり」ある学校生活の中で生徒の個性や創造性を伸ばすことを期待され、これまで国際教育や英語教育、芸術、情報といった教育内容を主にした中高一貫教育校が設置されてきましたが、最近では社会のリーダーとなるような人材の育成を目指し、千葉県立千葉高校のような進学校が中高一貫教育を導入しています。

現状と課題

- ・本県の中高一貫教育についての検討は平成10年に開始され、その後、中高一貫教育懇話会等多くの会議で検討を行いました。
- ・これまでのいずれの検討会等においても、中高一貫教育は有効であり、本県においても導入の必要性があるとされてきています。
- ・しかし、中高一貫教育の導入を検討するにあたり、設置形態や設置校として多様なパターンが検討されたが、中高一貫校をどのような視点で導入するか具体的方向を示すまでには至っていません。
- ・平成19年度実施の「高校改革アンケート」によると、中高一貫教育校の設置を「すぐに設置した方がよい」、「将来的には設置した方がよい」とする意見は合計47%であり、「どちらとも言えない」、「どちらかと言えば必要ない」が44%であることから、設置に関しては意見が分かれています。
- ・また、「県立高等学校の整備に関するアンケート」によると、今後必要だと思われる学校として「中学校と高校の6年間を一貫して学ぶ高校」を選択した人数は22%と、他の校種と比較し最も低い数値です。

新たな構想における論点

本県が目指す中高一貫教育校はどうあるべきか。